

東近江市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

本市の子育て世代を対象に実施した調査では半数以上が子育てに対して、不安や負担を感じていると回答している。また近年の社会状況の変化により、保護者にとって身近な手本となる人がいない、悩みや不安を抱えても相談できないなど、家庭教育を行う上での困難な現状がある。また、児童・生徒の抱える課題が複雑化多様化する傾向にあり、家庭教育はますます大切な役割を担うようになってきており、学校を含めた地域ぐるみで家庭を支援していく必要がある。

■家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために・・・)

子育てについて困り感のある保護者や、家庭教育について課題のある家庭の保護者を対象にアウトリーチ型の支援を届ける。家庭教育支援員と対象の家庭に関わる学校関係者を中心に家庭教育支援チームを作り、家庭教育支援員が保護者に寄り添う形で子どもの育ちを支援する。

■本年度の活動

(1)市内9小中学校における各家庭教育支援チームによる活動

- ・家庭教育支援チームでの情報共有
- ・家庭教育支援員による家庭訪問、相談活動、保護者支援、子育てサロンの実施

(2)東近江市家庭教育支援員連絡会の実施

- ・年3回の家庭教育支援員連絡会を実施
- ・年2回の家庭教育支援員・校長(担当者)合同連絡会の実施
- ・各家庭教育支援員の取組報告や情報共有を行う。

(3)家庭教育講演会の実施(年1回)

- ・保護者、学校関係者、民生委員児童委員等を対象に実施した。



【 家庭教育講演会 】

■訪問型家庭教育支援の実践内容

- ・家庭教育支援員とSSWが定期的に不登校児童宅に家庭訪問をして、保護者の相談対応をしたり児童へ関わったりしている。
- ・家庭教育支援員が不登校児童宅を訪問して、保護者・児童の相談対応を行った。その後、児童は家庭教育支援員と学校で過ごせるようになった。

■本年度の成果

家庭教育支援基盤構築事業を開始して3年目となった。家庭教育支援員の活動実績によって軌道に乗り、実施校も7校から9校に増えた。各校での活動を熱心にしていただいている。

■今後の課題

家庭教育支援員を配置して3年が経過し、活動実績を積み重ねることで、学校における家庭教育支援員のニーズが高まっている。その一方で、家庭教育支援員の担い手を見つけることは難しい現状がある。

報告書記入者(生涯学習課 指導主事)

保護者と学校をつなぐ アウトリーチ型家庭教育支援

東近江市 本事業開始年度 令和4年度		家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施		A:家庭教育支援チーム数 (9)チーム B:家庭教育支援員数 (9)人 C:家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (9)か所 D:前項(C)の配置場所名 (箕作小学校 八日市北小学校 八日市西小学校 五個荘小学校 能登川東小学校 蒲生北小学校 玉園中学校 五個荘中学校 湖東中学校)	
年間活動日数(のべ)	(575 日)		

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

(保護者からの相談への対応、保護者に対する情報提供、専門機関への橋渡し等)

「スピーディに効果的に訪問型家庭教育支援」

(1)管理職、教育相談等を中心に不登校傾向児童への相談体制の構築

(2)担任と家庭教育支援による1回目の家庭訪問

(3)家庭教育支援員による2回目以降の家庭訪問(週1)

・保護者、児童の話聞く。(学校、家庭で困っていることなど)

(4)児童との確かな信頼関係を築く

・家庭教育支援員と一緒に学校に行こうかなと思ってもらえたら、一緒に別室登校をする。

(5)家庭への電話連絡

・学校での出来事など家庭に伝えるべきことを連絡する。

(6)気になることがあれば、すぐに打合せをする。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

・校内における関係職員を集めた家庭教育支援チーム

校長、教頭、教育相談担当、生徒指導担当、担任、SSW、家庭教育支援員

・校内関係者による打合せの実施

・別室登校児童への対応

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

・東近江市教育委員会主催の家庭教育支援員連絡会に参加

・ケース会議の実施

○保護者に対する情報提供等

・学校から保護者に伝えるべき連絡事項がある場合は伝えている。



【 家庭教育支援員合同連絡会 】

■ 実施に当たっての工夫

○家庭教育支援員との打合せは、短い時間でも小まめに行き家庭支援員と関係職員との意思疎通を図っている。

○不登校となるきっかけは様々で、突然行き渋りが始まることもある。突然のこととなると保護者も大変困っておられる。初期対応を大切にして、家庭教育支援員には家庭訪問をして相談対応に当たってもらっている。

■ 事業の成果

○今年度から家庭教育支援員が変わったが、大変熱心に家庭教育支援活動をしていただいた。家庭訪問をして保護者の思いを傾聴したり、児童との信頼関係を築いていただいたりした。その結果、児童は家庭教育支援員がいるなら学校の別室に登校できるようになった。

■ 事業実施上の課題

○家庭訪問し保護者の思いを傾聴したり、児童との信頼関係を築いたりすることは大変困難を伴うことである。家庭教育支援員に期待すること以上のことをしていただいております反面、負担になっていないか心配をしている。

報告書記入者(生涯学習課 指導主事)